【表紙の画像】1．益子で作陶する濱田庄司 （公財）濱田庄司記念益子参考館　提供

［開催概要］

展覧会名：没後 40 年　濱田庄司展　大阪市立東洋陶磁美術館　堀尾幹雄コレクションを中心に
HAMADA SHOJI : Works from the Museum of Oriental Ceramics, Osaka’s Horio Mikio Collection

会期：　2018 年 6 月 30 日（土）～ 8 月 26 日（日）
会場：　世田谷美術館 1 階展示室
休館日：　毎週月曜日　※ただし 7 月 16 日（月・祝）は開館。翌 17 日（火）は休館。
開館時間：10：00 ～ 18：00　※入場は 17：30 まで。
観覧料：　一般 1000（800）円、65 歳以上・大高生 800（600）円、中小生 500（300）円
※（　）内は 20 名以上の団体料金、※※障害者の方は 500 円（介助の方 1 名まで無料）、大高中小生の障害者の方は無料
※リピーター割引／会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2 回目以降は団体料金でご覧いただけます。
主催：　世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援：　世田谷区、世田谷区教育委員会
協賛：　ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
特別協力：大阪市立東洋陶磁美術館
協力：　公益財団法人濱田庄司記念益子参考館　株式会社濱田窯

◆オープニングレセプション：6 月 29 日（金）15：30 ～ 18：00

［関連企画］

●講演会「濱田庄司の茶碗－民芸と茶をめぐって」
日時：7 月 7 日（土）14：00 ～ 15：30（開場 13：30）
場所：当館講堂
講師：杉山享司（日本民藝館学芸部長）
定員：先着 140 名　入場無料
※当日 12：00 からエントランスホールにて整理券を配布
※手話通訳付

●子どもと楽しむ「濱田庄司展」ミニレクチャー
小学校中学年以上の子ども向けに作品を楽しむヒントをお話します。
大人もご参加いただけます。
日時：7 月 29 日（日）、8 月 12 日（日）、8 月 25 日（土）
　　10：30（開場 10：15）～ 10：50
場所：当館講堂　入場無料　開始時間までにお集まりください
話し手：当館展覧会担当学芸員
※手話通訳付

●こども美術大学「ツチ・ノ・チカラ」
見て聞いて作って考える、本格志向の美術講座。実際に陶芸を体験し、益子にある濱田さんの窯を見学します。
日時：7 月 1 日（日）、31 日（火）、8 月 5 日（日）　全 3 日間
　　＊8 月 5 日は益子見学会（保護者同伴）
リーダー：荒井將光（陶芸家）講師：濱田友緒（陶芸家・公益財団法人 濱田庄司記念益子参考館館長）
対象：小学 4 年生～中学生
定員：20 名（申込先着順）
申込方法：5 月 25 日（金）より、当館 HP のイベント申込フォームにて受付
※参加費など詳細は、当館 HP にてご案内いたします。

●ナイトツアー
夜の美術館には秘密がいっぱい。ナゾを解き明かして誰も知らない美術館を探検しよう。
日時：8 月 25 日 (土) 18：30 ～ 20：00
場所：展示室他
対象：小学 4 年生～中学生
参加費：500 円
定員：50 名 (応募者多数の場合は抽選)
申込方法：当館 HP のイベント申込フォームにて受付
申込締切日：7 月 16 日（月・祝）

●＜100 円ワークショップ＞
子どもから大人まで、どなたでもその場で気軽に参加できる工作です。
日時：会期中の毎土曜日と 8 月中の毎金曜日
　　13：00 ～ 15：00（随時受付）
場所：地下創作室
参加費：1 回 100 円

［交通案内］

●東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩 17 分、もしくは美術館行バス「美術館」下車徒歩 3 分
●小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩 10 分
●小田急線「千歳船橋」駅下車、田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩 5 分
●来館者専用駐車場（60 台、無料）：東名高速高架下、厚木方面側道 400m 先、美術館まで徒歩 5 分

［同時開催］ ミュージアム コレクション

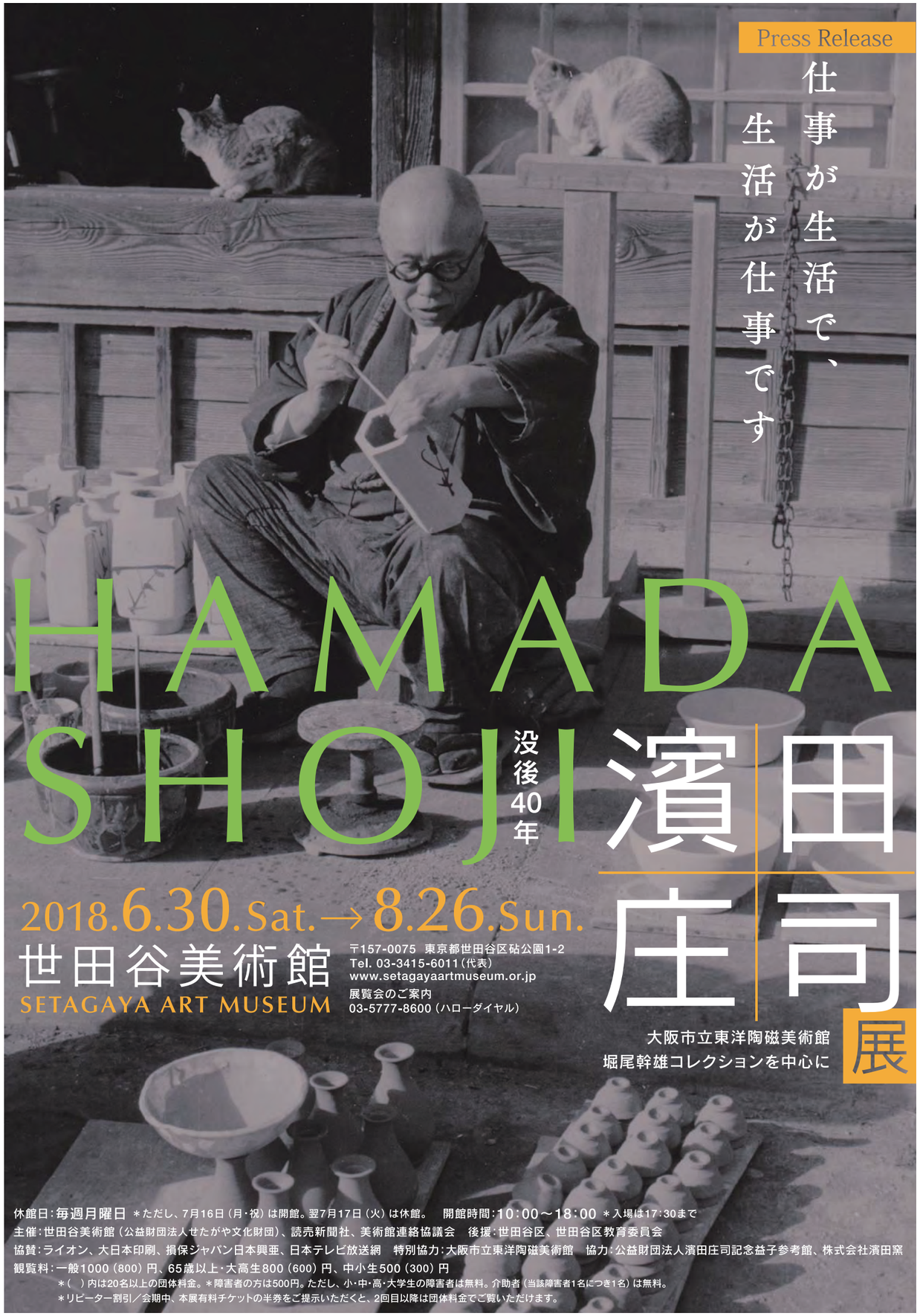
それぞれのふたり　小堀四郎と村井正誠　4 月 14 日（土）～ 7 月 8 日（日）
コーナー展示「追悼――舟越直木」

東京スケイプ　Into the City　7 月 21 日（土）～ 10 月 21 日（日）
コーナー展示「濱田窯の系譜――濱田晋作　濱田友緒展」

［次回企画展］ 向井潤吉　人物交流記　9 月 8 日（土）～ 11 月 4 日（日）

お問合せ
03-3415-6011（代表）
展覧会のご案内
ハローダイヤル 03-5777-8600

世田谷美術館 Setagaya Art Museum　〒157-0075　東京都世田谷区砧公園 1-2
https://www.setagayaartmuseum.or.jp/



没後 40 年　濱田庄司展
大阪市立東洋陶磁美術館　堀尾幹雄コレクションを中心に

「私の陶器の仕事は、 京都で道を見つけ、 英国で始まり、 沖縄で学び、 益子で育った」――濱田庄司

『濱田庄司七十七盌譜』1972 年（日本民藝館刊）より

［みどころ］

濱田庄司（1894－1978）は、1955 年に「民芸陶器」で第 1 回重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された、世界的にも知られる陶芸家です。
1894 年に現在の神奈川県川崎市で生まれた濱田は、1916 年に東京高等工業学校（現・東京工業大学）の窯芸科を卒業後、京都市陶磁器試験場で当時の陶芸業界の先端技術を学び、釉薬などの研究を行いました。こうした経歴もあったことから、濱田はイギリス人の陶芸家バーナード・リーチに誘われて、1920 年に彼と共にイギリス西南端のセント・アイヴスで作陶を始めます。滞在中に訪れたロンドン南方の芸術家村ディッチリングで、染織家エセル・メーレと詩人で彫刻家のエリック・ギルの、都会から離れた美しい村での生活と結びついた創作態度を目のあたりにし、大きな影響を受けます。

1924 年に帰国した濱田が、沖縄の陶工たちの昔ながらの仕事を学ぶ一方、最終的に制作の拠点として選んだのは、東京からほど近い距離でありながら、江戸後期の窯場の仕事が残る栃木県益子でした。

濱田は、近代人の視点で、各地の伝統的な民窯の器などから、作為的な美ではない、生活のなかから自然に生みだされる美を見出していきました。そして、生活に根ざした暮らしをしながら、益子の土と釉薬を使って器づくりを行い、陶芸の世界に新たな境地を切り拓きました。
堀尾幹雄氏（1911-2005）は、濱田が益子での制作活動の基盤を整えた 1933 年、濱田の器と出会い、濱田との交流を通じてコレクションを形成していきました。そのほとんどが、堀尾氏の日々の暮らしのなかで実際に使われてきたものです。そのなかには、柳宗悦も高く評価していた茶碗も多数含まれており、これらは濱田の作風の変遷がよくわかる貴重なコレクションとなっています。

2. 濱田庄司《白釉黒流描　大鉢》制作年不詳

本展では、堀尾氏が大阪市立東洋陶磁美術館へ寄贈した 200 余件の作品から 184 作品を選び、京都市陶磁器試験場時代や滞英期の資料、創作の源泉として濱田庄司自身が蒐集した世界各地の民窯の器なども加え、約 200 件で、生活に根ざした暮らしをしながら、益子の土と釉を使って、新たな境地を開拓していった濱田庄司の健やかな器の魅力を紹介します。

［展示構成］

1 章　創作の源泉

（1）京都市陶磁器試験場時代から 3 年間のイギリス生活まで
――濱田を益子へと向かわせたセント・アイヴスやディッチリングでの経験

京都市陶磁器試験場で近代的な研究を行なっていた頃の実験ノートや、濱田が益子に拠点を定めることに大きく影響したディッチリング関連の資料として、エリック・ギル（1882-1940）の版画や、染織家エセル・メーレ（1872-1952）の食卓に並んでいたスリップウェア一式の制作者・エドヴィン．ビア．フィッシュリー（1832-1912）の花器などを紹介します。

3. E.B. フィッシュリー《緑釉花器》1900 年頃　益子陶芸美術館蔵　撮影：横堀聡

（2）創作の糧となった濱田の蒐集品
――近代人の視点で見出した、生活のなかから自然に生み出される生活工芸品の美

イギリスのスリップウェアや益子の山水土瓶など（公財）濱田庄司記念益子参考館所蔵の濱田が蒐集した世界各地の民窯の器や、濱田がメモ代わりに描き留めた、世界各地の民芸品のスケッチなどを紹介します。

4.《山水土瓶》（益子）江戸時代後期（公財）濱田庄司記念益子参考館蔵　撮影：秋山晋一

5.《スリップウェア　皿》（イギリス）17 世紀　（公財）濱田庄司記念益子参考館蔵　撮影：秋山晋一

※所蔵先の記載の無い画像は、すべて
大阪市立東洋陶磁美術館蔵　堀尾幹雄コレクション

2 章　益子での創作の日々
――益子の土と釉を最大限に活用して無限のバリエーションを生み出した濱田の日常食器

堀尾幹雄コレクションは、濱田が都会の喧騒から離れ、益子の落ち着いた生活のなかで、本格的に作陶を始めた時期から晩年までの幅広い作品が揃います。湯呑から大鉢まで、堀尾幹雄氏が実際に日常で使っていた食器です。
濱田が得意とした、柄杓などを使って釉を大胆に掛ける「流描・流掛」や白釉と黒釉を掛け分け、黒釉の部分を指で拭い取って文様を描き出す、大胆で迫力のある「掛分指描」。沖縄の糖黍畑でのスケッチから生まれた濱田庄司のトレードマークともいうべき「糖黍文」。このほか、様々な益子の土と釉を生かしつつ、京都での研究や、イギリスでの経験、沖縄をはじめ各地の様々な伝統技法を取り入れたバリエーション豊かな作品を紹介します。また、本展では、濱田がイギリスから持ち込んだウィンザーチェアや、濱田のデザインしたダイニングテーブルを食器とともに展示し、濱田や堀尾氏の求めた健やかな生活とともにある濱田の器の魅力を紹介します。

6.《ダイニングテーブル、イス（デザイン：濱田庄司）》1940 年頃（公財）濱田庄司記念益子参考館蔵　撮影：秋山晋一

7. 濱田庄司《絵替　各皿》（5 枚）制作年不詳

8. 濱田庄司《掛分指描　土瓶》1949 年

9. 濱田庄司《青釉白黒流描　大鉢》1951 年頃

3 章　濱田庄司の茶碗
――柳宗悦も高く評価した濱田庄司の茶碗

濱田の喜寿を記念して刊行された『濱田庄司七十七盌譜』（1972 年）に掲載されている茶碗など、濱田庄司の茶碗の代表作品を多数含む堀尾幹雄コレクションから 41 点の茶碗を展示します。早い時期のものから、晩年になってから始めた楽茶碗まで幅広い茶碗が並びます。

10. 濱田庄司《象嵌　茶碗》1944 年秋

11. 濱田庄司《塩釉櫛目色差　茶碗》1961 年頃

［略歴］

1894（明治 27）年 12 月 9 日　神奈川県橘樹郡高津村（現・川崎市高津区）溝ノ口で生まれる。
1908（明治 41）年　東京府立第一中学校（現在の都立日比谷高校）に入学。
1913（大正 2）年　東京高等工業学校窯業科へ入学。板谷波山に学び、田端の波山邸にしばしば通う。同じ窯業科三年生の河井寛次郎と出会う。
1916（大正 5）年　東京高等工業学校を卒業後、京都市陶磁器試験場に入る。京都市陶磁器試験場付属伝習所の学生近藤雄三（後の悠三）から轆轤の手ほどきを受ける。
1918（大正 7）年　8 月に河井と沖縄を旅し、壺屋の窯場を見学。12 月にリーチの個展会場（流逸荘）でバーナード・リーチと会う。
1919（大正 8）年　千葉県我孫子の柳宗悦邸にあるリーチの陶房で柳宗悦を識る。
1920（大正 9）年　3 月に初めて栃木県益子を訪れる。6 月、リーチにイギリスのセント・アイヴスでの作陶を強く誘われ、陶磁器試験場を辞し、渡英。
1921（大正 10）年　リーチとともにイースト・サセックス州のディッチリングの染織物エセル・メーレと詩人で彫刻家のエリック・ギルを訪ねる。
1923（大正 12）年　パターソンズ・ギャラリー（Paterson's Gallely、ロンドン）で初の個展を開く。セント・アイヴスの 3 年間に焼いた作品を出品してほとんど売約となり、成功を収める。
1924（大正 13）年　関東大震災の報を聞き帰国。栃木県益子に生活の基盤を定める。12 月、木村和枝と結婚。
1925（大正 14）年　東京銀座鳩居堂で帰国後最初の個展を開く。
1926（大正 15）年　柳が書き上げた「日本民藝美術館設立趣意書」を富本憲吉・河井寛次郎・濱田庄司・柳宗悦の連名で印刷配布する。
1931（昭和 6）年　益子の住居脇に 3 室の登窯を築く。
1953（昭和 28）年　昭和２７年度芸術選奨文部大臣賞を受賞。
1955（昭和 30）年　第 1 回重要無形文化財保持者（民芸陶器）に指定される。
1962（昭和 37）年　柳宗悦の後を継ぎ、日本民藝館館長となる。
1964（昭和 39）年　紫綬褒章を受章する。
1968（昭和 43）年　文化勲章を受章する。
1973（昭和 48）年　ロンドン王立美術大学より名誉学位 Honorary Doctor of Art を受ける。
日本民芸協会会長に就任する。
1977（昭和 52）年　財団法人益子参考館開館。館長・理事長に就任。
1978（昭和 53）年　老衰と急性肺炎のため自宅で死去。享年８３歳。